

マタイの福音書 第6章 9節

「だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。』」

21世紀に入り世界は賢明になっただろうか。世界で大戦が続いた20世紀を通り抜けて、新しい世紀は過去から何かを学び一段と賢くなっただろうか。花吹雪が舞うこの春ののどけさがそのまま世界の風景になっているだろうか。これらの期待はことごとく打ち砕かれ、少しも賢くはなっていないし、春ののどけさを手放して満喫できるような時世とはなっていない。

聞こえるのは、叫びであり、嘆きであり、嘘偽りの声である。幼子たちは行くあてもなく放置され、母親たちは胸裂け涙を流すばかりである。男たちは武器を手に命を懸けて戦場に立つ。町は崩れ、地は荒廃し、地域は裂かれ流血が絶えない。滅びの王、闇の王が大手を振って破滅の王道を闊歩する。

地上の叫びを聞くが、人の愚かさは手が付けられないほどの醜態である。愚かさが愚かさを産み、狂気が狂人を生み出し歯止めが効かない。だから、天を仰ぎ祈る。そのとき国境も、人種も、民族も、憎しみも、敵対心も、殺し合いも、支配者も、被支配者も、独裁も、民主も、叫びも、嘆きも、嘘偽りも融けてしまう。天の御前では、こう祈ればよいからだ、「天にいます私たちの父よ。」

2022年4月1日